

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 財団法人大阪国際交流センター

1. 事業の趣旨・目的

外国にルーツを持つ子どもたちを対象に、小学校入学にあたって必要とされる日本語や学校生活について学習を行い、小学校生活がスムーズに進むことを目指す。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
1月21日 (土) 10:30～ 14:00	大阪国際交 流センター	辰巳正秀 西野容子 内田千景 石橋英樹	プログラムの検討	カリキュラムに沿ったプロ グラム内容について、目標 の設定
1月28日 (土)13: 00～15: 00	大阪国際交 流センター	辰巳正秀 西野容子 内田千景 角尾元子	クラスの進め方	第1回目終了後に参加の 子供についての情報共有 と次回以降のクラスの進め 方
2月18日 (土)13: 00～15: 00	大阪国際交 流センター	辰巳正秀 内田千景 石橋英樹 小谷恭子	クラスの進め方	第3回を終了して、日本語 能力差の子供への対応に いて検討
3月10日 (土)13: 00～15: 00	大阪国際交 流センター	辰巳正秀 西野容子 角尾元子 北井久美子	クラスの進め方	給食・掃除の指導について の具体的な方法について

【写真】別添

3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 外国にルーツを持つこどものためのプレスクール
- (2) 開催場所 大阪国際交流センター
- (3) 学習目標 小学校生活に必要な語彙の習得、学校の場所の名前、給食や掃除などの作業について理解し、学校生活になじめるようにする。
- (4) 使用した教材・リソース

- (5) 受講者の募集方法

チラシ、ホームページへの掲載、機関誌への掲載、市広報誌への掲載

- (6) 受講者の総数 15 人

(出身・国籍別内訳 中国 5、ブラジル 2、ロシア 1、フィリピン 1、アメリカ 1、イギリス 1、カナダ 1、ナイジェリア 1、ウクライナ 1、モンゴル 1)

- (7) 開催時間数(回数) 12 時間 (全 8 回)

- (8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者人数	内容
①	1月28日(土) 10:30~12:00	1.5 時間	12人	中国・中国語(2人)、 ブラジル・ポルトガル語(2人)、 ロシア・ロシア語(1人) フィリピン・英語(1人)、 アメリカ・英語(1人)、 イギリス・英語(1人) カナダ・英語(1人)、 ナイジェリア・日本語(1人) ウクライナ・ロシア語(1人)、 モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者4人 (時間内で交代)	体の部分の名前を覚えよう 教材使用
②	2月11日(土) 10:30~12:00	1.5 時間	11人	中国・中国語(3人)、 ブラジル・ポルトガル語(1人)、 フィリピン・英語(1人)、 アメリカ・英語(1人)、 イギリス・英語(1人) カナダ・英語(1人)、 ナイジェリア・日本語(1人) ウクライナ・ロシア語(1人)、 モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者5人 (時間内で交代)	数を覚えよう 位置を覚えよう

③	2月18日(土) 10:30~12:00	1.5 時間	12人	中国・中国語(4人) ブラジル・ポルトガル語(1人) フィリピン・英語(1人)、 アメリカ・英語(1人)、 イギリス・英語(1人) カタ・英語(1人)、 ナイジェリア・日本語(1人) ウクライナ・ロシア語(1人)、 モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者6人 (時間内で 交代)	あいさつをし よう
④	2月24日(土) 10:30~12:00	1.5 時間	11人	中国・中国語(3人) ブラジル・ポルトガル語(1人) フィリピン・英語(1人)、 アメリカ・英語(1人)、 イギリス・英語(1人) カタ・英語(1人)、 ナイジェリア・日本語(1人) ウクライナ・ロシア語(1人)、 モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者5人 (時間内で 交代)	物の名前を覚 えようⅠ
⑤	3月3日(土) 10:30~12:00	1.5 時間	11人	中国・中国語(3人)、 ブラジル・ポルトガル語(1人)、 フィリピン・英語(1人)、 アメリカ・英語(1人)、 イギリス・英語(1人) カタ・英語(1人)、 ナイジェリア・日本語(1人) ウクライナ・ロシア語(1人)、 モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者5人 (時間内で 交代)	学校にある場 所や物の名前 を覚えよう
⑥	3月10日(土) 10:30~12:00	1.5 時間	10人	中国・中国語(2人)、 ブラジル・ポルトガル語(1人)、 フィリピン・英語(1人)、 アメリカ・英語(1人)、 イギリス・英語(1人) カタ・英語(1人)、 ナイジェリア・日本語(1人) ウクライナ・ロシア語(1人)、 モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者4人 (時間内で 交代)	物の名前を覚 えようⅡ

⑦	3月17日(土) 10:30~12:00	1.5 時間	9人	中国・中国語(1人)、 ブラジル・ポルトガル語(1人)、 フィリピン・英語(1人)、 アメリカ・英語(1人)、 イギリス・英語(1人)、 カタール・英語(1人)、 ナイジェリア・日本語(1人)、 ウクライナ・ロシア語(1人)、 モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者5人 (時間内で交代)	給食を食べよう
⑧	3月24日(土) 10:30~12:00	1.5 時間	9人	中国・中国語(1人)、 ブラジル・ポルトガル語(1人)、 フィリピン・英語(1人)、 アメリカ・英語(1人)、 イギリス・英語(1人)、 カタール・英語(1人)、 ナイジェリア・日本語(1人)、 ウクライナ・ロシア語(1人)、 モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者4人 (時間内で交代)	そうじをしよう

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

一人が教授者となる時は、他の教授者は補助者として、授業を進めた。

- ①座学だけではなく、歌やゲームなどを取り入れ、クラスに意欲をもって参加できるように工夫した。
- ②学校にある場所や物の名前を覚えようでは、会場近隣の小学校を訪問し、職員室、教室、保健室、体育館、運動場など実際に見る機会を提供した。
- ③給食指導、清掃指導など具体的な学校の生活ルールについて指導し、用具の使い方など体験。

4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

毎回授業の初めに前回の復讐をすることで、学習者の習得状況を把握し、全員が日本語であいさつをしたり、学校で使う物の名前、学校の場所の名前、給食や掃除のルールなどほぼ目標を達成できた。

(2) 学習者の習得状況

保護者から、学習者が毎回参加することを楽しみにしていること、また家に帰ってからも、復習やいろいろな物の名前を日本語で知りたがるなど、学習意欲が出てきたことに満足しているとの声が多く、好評であった。

(3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

学習者だけでなく、保護者も、日本の学校への入学について不安感を持っていたが、子どもとともに参加することによって、安心して入学準備を進めることができるという感想があり、外国人を親に持つ子どものために今後も引き続きこのような教室開催の要望があった。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

地域の小学校と連携することで、実際に学校を見ることができた。

(5) 改善点, 今後の課題について

① 現状

クラスは15名で、母語も違い、日本語レベルにも差がある状況で、授業を進めるには、教授者には負担になることもあり、また学習者にしても退屈であったり、面白くないと思い、参加意欲がなくなり、参加を途中でやめた子どももいた。

② 今後の課題

日本語レベルの差がある参加者が同時に学ぶ場合の対応の仕方について、授業の組み立てに工夫が必要。

③ 今後の活動予定, 展望

今年度の状況を踏まえ、さらに内容を充実させ、日本語のレベル差があっても、全員が意欲的に参加できるようなクラスづくりを考える勉強会の実施、また来年度の同時期にプレスクールを開催し、今後も増加するであろう外国にルーツを持つ子どもたちへの指導をおこない、自国文化を大事にしながらも、日本に対する理解、親しみが持てるように実践していく。

(6) その他参考資料

- ・保護者のアンケート(回収 7 枚)
- ・運営委員会及び教室風景

<教室風景>





<運営委員会>